

速報 12月24日 京都府への申し入れ

京都府北部住民アンケートの結果に基づき、乾式貯蔵等について説明会等を要望

8割の住民が乾式貯蔵の計画を知らない

→「知ってもらふ必要がある」(府)

しかし、具体的に府として何をするのか語らず

「関電がつくる新たなロードマップの実効性を注視する」(府)

滋賀県が関電に意見書を出したことを知らず

「エネルギー情勢による例外」で使用済燃料が増えることは知らず

12月24日、乾式貯蔵等に関する、京都府北部の高浜原発30km圏7市町住民へのアンケート結果に基づき、京都府に申し入れしました。京都府、兵庫県、大阪府から10名の市民が参加。府は、尾藤敦参事1名のみの対応でした。冒頭、知事あての要望書を提出し、約50分やりとりしました。

私たちは、約8割もの人が乾式貯蔵の計画は「知らない」と答え、乾式貯蔵等について「説明すべき」と回答したことを重視し、住民説明会を開くこと等を求めました。府は、いろいろな意見があることはうけたまわるとだけ述べ、それ以上のことは答えようとしませんでした。このため、8割が知らないままでよいのかと何度も問うとようやく、「知ってもらふ必要がある」と述べました。しかし、そのために具体的に何をするかは答えなかったため、説明会等を検討するよう求めました。



私たちは、アンケート結果で、乾式貯蔵の設置で、使用済燃料が溜まり続けることになるのを批判する意見が多かったと紹介しました。府は、関電が新たに作成するロードマップが実効性のあるものになるかを注視していくと回答。また、関電が貯蔵容量は増やさないとやっているからよいとも述べました。しかし、エネルギー安定供給が必要な場合は例外となると関電が言っていることを知りませんでした。

滋賀県が意見書を出したように、アンケート結果を知事に伝え検討するよう求めましたが、府は、概要は内部でまとめて報告するが、このまま伝えるかどうかは分からないと回答。滋賀県が意見書を出したことは知りませんでした。

最後に改めて、住民の声を受け止め、アンケートの声を尊重するよう強く訴えました。

申し入れ後、府政記者クラブで記者会見しました。5社が参加し、アンケートの結果や申し入れの内容の紹介後、乾式貯蔵の問題点やアンケートを集めた時の様子等について質疑を行いました。



2024年12月24日 避難計画を案ずる関西連絡会 参加者一同